

## 山の百花

講師 佐藤 マキ子

## 【77】ツバメオモト

初秋の磐梯山からの下山時であった。登山道の草むらの中に、ルリ色の美しい実が三個ほど生っているのを見つけ、これは何の実だろう、どんな花が咲くのだろうかと気にかけていて、後にそれがツバメオモトを知るきっかけだった。

ツバメオモトはユリ科の多年草で葉は鉢植えのオモトの様で名前からしてなるほどとうなずける。五月下旬から七月にかけて、花茎の先に六弁花を総状につける。白い花とやわらかい緑の葉のバランスは、さすが、神様が造られた自然の妙だと思わずにはいられない。

磐梯山では、残雪もまばらになり、山開きの喧騒も、春一番と競っていた春の花たちも一段落、春もみじ(会津地方では春の芽吹き)の美しさをこう例えます(も)も、緑一色になる六月上旬、ヒマラヤやシベリアから渡来したアマツバメが山頂でにぎやかに飛翔し、子育てのため昆虫の捕食にいそしむ姿が見られます。

この頃になると、ツバメの来る頃に咲くからと名前の由来どおり、山の花の少ない八方台からの登山路でも、処々にその姿を見つけることができます。根曲り竹の根元にひっそりと咲く楚々とした姿、特に雨に打たれたツバメオモトも一段と美しく、梅雨時の山行もまた楽しいの感ひとしおです。



## 【78】バンダイクワガタ

ゴマノハグサ科の固有変種で磐梯山の名を冠した唯一の高山植物であるが、山野草の図鑑などには載っていない。クワガタリウとは全く異なり、ミヤマクワガタ、キクバクワガタ、アポイクワガタと縁種で、一番アポイクワガタに似ている。

梅雨の晴れ間の洗濯(こんな言葉はな

ったか?)をしていて、あまりの好天にそうだ、バンダイクワガタに会いに行こうと思いい立ち、常備品の入ったザックにテルモスと賞味期限ギリギリの残りもののクロワッサンを詰め込んで車を走らせた。

磐梯山は登山路が幾通りもあるが、バンダイクワガタに会うなら表磐梯スキー場からが一番、ひと登りし赤埴山を巻き沼の平に出ると磐梯山も一段と大きくせまる。レンジツジやムラサキヤシオ、ミネハタザオなども迎えてくれてるが先を急ぐ。右手に櫛ヶ峰が見えはじめるころから足元に目をこらす。しばらくして、二輪の花をつけたバンダイクワガタを見つけた。期待に胸がふくらむ。ガレた登山路を爆裂火口へりまで登ると立入禁止のロープ内に三合目の石標がある。そこから櫛ヶ峰への登山路の砂礫地帯に歩を進めると、バンダイクワガタの薄紫の群落が広がっていた。やさしく風に揺れる様はまるで天使のベールのようである。花穂の一段が一日の命とか、年に一度、短い花の時期に巡り合い、しばしコーヒーを飲みながら至福の時を過ごし下山した。